

基礎研 レポート

中国の生命保険市場(2020年版) 基礎データ

保険研究部 准主任研究員 片山 ゆき
(03)3512-1784 katayama@nli-research.co.jp

1—市場概況

2020年の中国における生命保険（健康保険、傷害保険などを含む「広義の生命保険」）の収入保険料は、前年比7.5%増の3兆3,329億元であった（図表1）。日本円ではおよそ53兆円¹規模となる。ただし、生命保険会社（人身保険会社）のみの場合は、前年比6.9%増の3兆1,674億元であった。

2020年は新型コロナウイルスの感染症の拡大から、経済活動や雇用・就業などの影響を受けており、保険料収入の増加率は前年（13.8%）より6.3ポイント落ち込んだ。しかし、収入保険料は堅調に増加しており、これまでで最大規模となった。市場規模は、直近5年間でおよそ2倍に拡大している。

（図表1） 生保収入保険料の推移



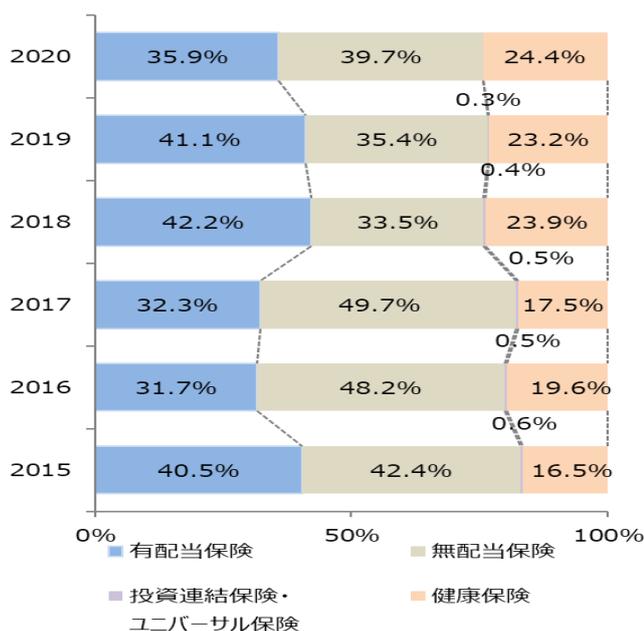
（注）中国では、保険を人保険（「人身保険」〔広義の生命保険〕）、物保険で分けている。人身保険は、生命保険（定期、終身、養老）、健康保険（医療、疾病、介護、所得保障、傷害保険）、年金保険を指し、ここでは広義の生命保険として、これらの保険の収入保険料の合計を掲載している。

（出所）中国銀行保険監督管理委員会ウェブサイトの公表データより作成

¹ 1元 = 15.9円

2—商品構成

(図表 2) 商品構成〔収入保険料ベース〕



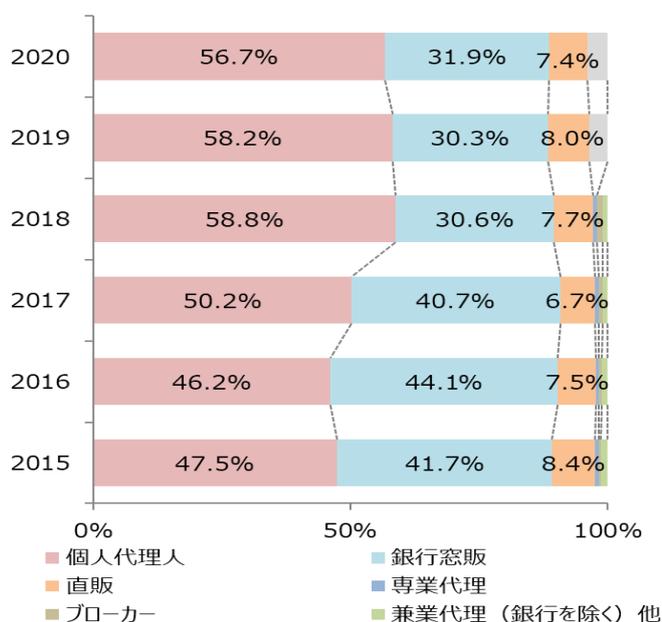
(出所) 銀保監会、中国保険年鑑他より作成

2020年の商品構成（収入保険料ベース）は、無配当保険が前年より4.3ポイント増加し、39.7%と最も多くを占めた（図表2）。有配当保険は5.2ポイント減少し、全体の35.9%を占めた。

健康保険（傷害保険を含む）の構成比は前年から1.2ポイント増加して、全体の24.4%を占めた。既存の実損填補型の医療保険や、高額な給付を目的とした重大疾病保険の需要が高い上、新型コロナによる健康への意識の高まりから需要が拡大した。

3—販売チャネル構成

(図表 3) 販売チャネル〔収入保険料ベース〕



(出所) 銀保監会、中国保険年鑑他より作成

2020年の販売チャネル（収入保険料ベース）は、新型コロナによる非対面式の販売が推奨されたが、個人代理人が56.7%と引き続き最も多くを占めた（図表3）。

次いで、銀行窓販が31.9%を占めた。市場健全化による一時払い商品の販売規制がされた2018年以降、3割台を維持している。銀行窓販と個人代理人を合計すると全体の88.6%とおよそ9割を占めた。

インターネットなどの販売を含む直販は全体の7.4%を占めた。インターネットを介した生命保険の販売は増加しており、収入保険料は前年比13.6%増の2,111億円（3.4兆円）となった。

4—保険金、解約払戻金の支払い状況



2020年の生命保険の死亡保険金や満期保険金等の支払いは、前年より8.8%増加し、6,952億円となった(図表4)。短期の貯蓄型保険の販売規制や市場の商品構成の健全化により、生命保険関連の支払いは減少している。一方、健康保険は従来からの需要の高さに加えて、新型コロナを給付対象とするなど、支払いは前年比24.2%増の2,921億円となった。なお、新型コロナ関連での支払いは3億4,800万円であった。

また、解約払戻金は、前年比45.1%減の3,207億円となった。解約率も前年から2.58ポイント減少し、2.39%となった。

5—主要な保険会社の業績状況

2020年、国内系の生命保険会社(医療保険専門、企業年金専門の保険会社を含む)は62社、外資系生保は28社であった。市場占有率(収入保険料ベース)は、国内系生保が90.0%を占め、外資系生保は10.0%であった。市場占有率の高い上位3社は、中国人寿、平安人寿、太平洋人寿である(図表5)。

(図表5) 国内系/外資系生保上位5社の業績

国内系生保		経営	市場占有率	保険料収入(億円)	営業収入(億円)	純利益(億円)	累積損益(億円)
1	中国人寿	国有	19.1%	6,047	8,250	514	1,839
2	平安人寿	民営	15.0%	4,761	6,827	921	1,061
3	太平洋人寿	民営	6.4%	2,038	2,840	191	249
4	新華人寿	国有	5.0%	1,595	2,065	143	459
5	華夏人寿	民営	4.6%	1,471	-	-	-
外資系生保		経営	市場占有率	保険料収入(億円)	営業収入(億円)	当期利益(億円)	累積損益(億円)
1	グレートイースタン	民営	1.9%	603	710	3	31
2	アクサ	民営	1.5%	480	572	13	29
3	AIA	民営	1.3%	398	470	73	72
4	ブルデンシャル	民営	0.7%	234	288	25	67
5	シグナ	民営	0.6%	197	236	16	48

(注1) 市場占有率は、生命保険会社(合計)の保険料収入に対する占有率となっている。前掲の図表1における生保収入保険料の医療保険、傷害保険には損害保険会社による保険料収入が一部含まれている。

(注2) 華夏人寿については、2020年のディスクロージャー資料を公表していない。

(出所) 各社のディスクロージャー資料、銀保監会のウェブサイト、中国保険年鑑他より作成

2020年は新型コロナによって、保険商品の存在意義が大きく問われる1年であった。新型コロナの感染が拡大した第1四半期には消費抑制の影響もあり、保険料収入は前年より減少した。一方、当局は保険各社に、新型コロナを保険給付の対象とすることや、医療従事者などに無償で付保することなどを要請した。

中国人寿、平安人寿、太平洋人寿などの大手生保を筆頭に、(1)第一線で働く医療従事者や公務員などへの無償付保、(2)関係機関への寄付や援助、(3)新型コロナに感染した契約者への給付をいち早く行った。大手各社は、自社の健康プラットフォーム上で、オンライン診療（24時間対応）、電話相談、感染防止の情報や感染情報の提供、慢性病などの医薬品の配送など、新型コロナに関する専門のサービスを無料で提供した。このように、保険会社は現金給付という本来の役割と、オンライン診療などのサービス提供を通じて医療供給体制の一端を担った。2020年において、このような取り組みに参加した生保は70社にのぼり、およそ1,400の保険商品で新型コロナ関連の給付がなされた。新型コロナ関連で支払いを受けたのは9,709名にのぼり、給付額は3億4,800万元で、そのうち無償付保による給付が2億4,200万元となった。

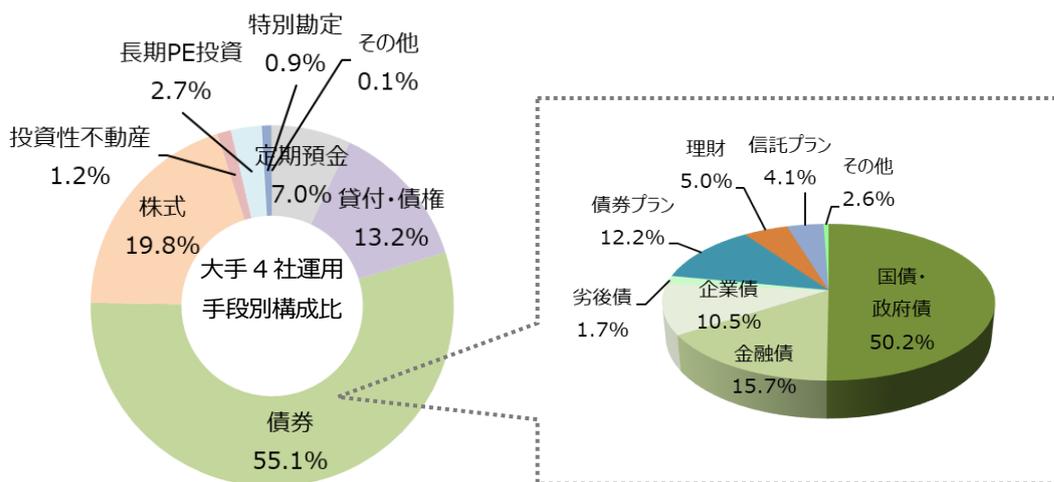
一方、2020年1月からは外資出資比率規制が撤廃されるなど、外資規制の緩和が進んだ。元よりアジア市場に強みを持つ保険会社の動きが活発化し、AIAは上海支店を100%出資する生命保険会社（「友邦人寿保險有限公司」）に改組し、再スタートした。

6—資産運用状況

2020年の生保の総資産額は、前年比17.8%増の19兆9,790億元であった。中国では、生命保険業全体の資産運用状況は公表していないため、以下では、生保上位4社（中国人寿、平安人寿、太平洋人寿、新華人寿）について確認し、全体像を概観する²。

図表6は4社の資産のうち、負債を運用し、収益を確保することを目的とした実働資産について債券や株式など運用手段別に分類したものである。2020年は銀行の定期預金（7.0%）、貸付・債権（13.2%）、債券（55.1%）といったインカム資産が実働資産全体の75.3%を占めており、安全な資産を中心に運用されている。また、およそ半分を占める債券については、国債・政府債が50.2%、金融債が15.7%と安全性の高い債券が過半の65.9%を占めた。

（図表6）生保上位4社の運用手段別資産構成



（出所）各社のディスクロージャー資料より作成

² 5位の華夏人寿については、2020年のディスクロージャー資料を公表していないため除外している。

7—収支状況

(図表 7) 生保上位 4 社の収支状況

生保大手 4 社計		2020年
経常収益		19,982
	保険料等収入	14,598
	資産運用収益	5,205
	その他	180
経常支出		18,044
	保険金等支払金	3,142
	責任準備金等繰入額	9,150
	契約者配当	594
	手数料・コミッション	1,825
	事業費	889
	その他	2,445
経常利益		1,938
営業外収入		4
営業外支出		11
所得税		162
当期利益		1,769

(出所) 各社のディスクロージャー資料より作成

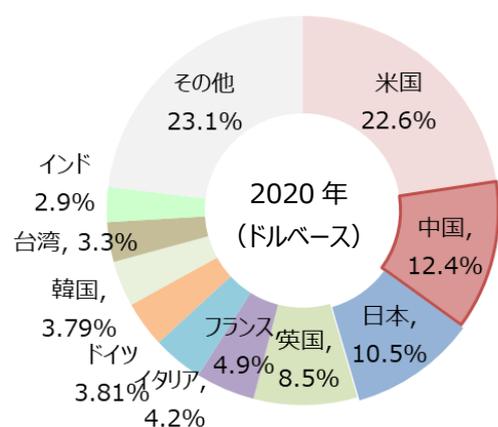
中国の生命保険業全体の収支動向は公表されていないため、以下では資産運用と同様に大手 4 社について確認し、全体像を概観する。

2020 年の生保上位 4 社の経常収益の総額は 1 兆 9,982 億円で、その多くは保険料等収入(構成比:73.1%)と資産運用収益(26.0%)で構成されている(図表7)。一方、経常支出は 1 兆 8,044 億円であった。経常支出の大部分は将来の保険金支払いに備える責任準備金等繰入額(50.7%)、契約者への保険金や諸払戻金等として支払われる保険金等支払金(17.4%)、手数料・コミッション(10.1%)からなっている。2020 年の当期利益は 1,769 億円となった。

8—世界における中国生命保険市場の位置づけ

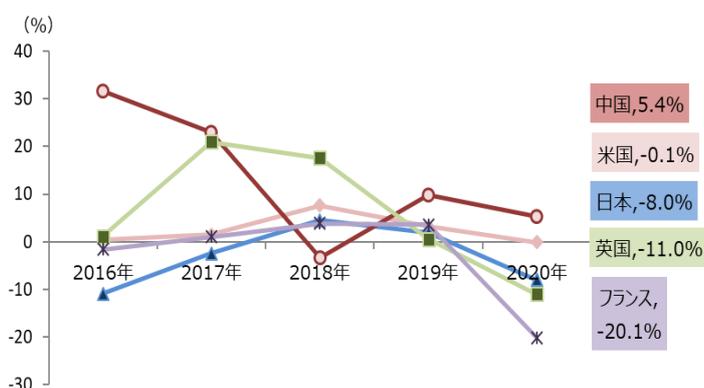
スイス再保険会社の Sigma「World insurance:the recovery gains pace」によると、2020 年の国・地域別の生命保険料の規模において、中国は米国に次いで世界第 2 位となった(図表 8)。上位 5 カ国において、4 カ国の生命保険料の前年比増減率がマイナスに転じたが、中国は前年比 5.4%増と増加を維持した(図表 9)。

(図表 8) 国・地域別 生命保険料収入シェア



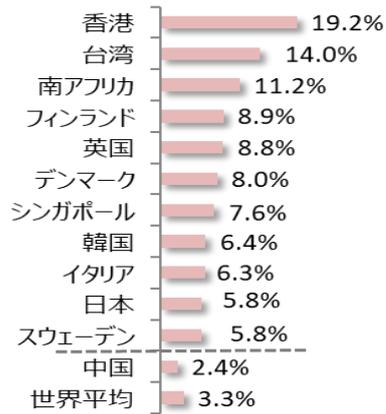
(出所) Swiss Re Sigma「World insurance」(各年)より作成

(図表 9) 国・地域別の生命保険料の前年比増減率
(2020 年時点での上位 5 カ国・現地通貨ベース)



一方、多くの人口を抱える中国では、保険が国民1人1人に広く普及している状態には達していない。2020 年、GDPに占める生命保険料収入の割合は 2.4%と世界平均の 3.3%に達していない状況にある(図表 10)。また、1人あたりの生命保険料収入(ドルベース)も 241ドルとこちらも世界平均 360ドルに達しておらず、成長の余地は引き続き大きいと言えよう(図表 11)。

(図表 10) GDP に占める生命保険料収入の割合



(図表 11) 1人当たりの生命保険料収入 (ドルベース)



(出所) SwissRe Sigma「World insurance:the recovery gains pace」より作成